

■単収・食味UPを目指して～登熟初期の高温時は、夜間かんがい等で白未熟粒の発生を防ぎましょう～

- ①水 管 理：出穂～開花期は、圃場を乾かさないうに浅水管理を行いましょう。登熟期は、**間断かんがい**を実施し、根の活力を保ちましょう。
- ②いもち病対策：こまめに圃場を巡回・観察し、発病を確認した場合は治療薬剤で防除しましょう。
- ③カメムシ対策：薬剤防除（スタークル剤）は適期に行いましょう。

稲の生育状況

町内の出穂状況は、概ね平年並みで出穂しておりますが、穂揃い期を迎えている圃場もあります。出穂開花期となっている圃場は浅水管理としましょう。

今後、稲は登熟期間に入ります。登熟初期に高温になると乳白・腹白・胴割粒が発生しやすくなりますので、間断灌がいで水温調整をはかるなど、天候に応じた水管理に努めましょう。

展示圃の生育状況（ひとめぼれ）

茎数は1株当りの本数

7月25日調査	草 丈 (cm)	茎 数 (本)	葉 数
令 和 6 年	84.7	30.7	12.7
平 年 値	81.5	28.2	12.2
平 年 対 比	104.0	108.8	103.5

水管理 ポイント①出穂～開花期は、圃場を乾かさないうに浅水管理を行いましょう。登熟期は**間断かんがい**を実施し、根の活力を保ちましょう。

※早期の落水は、収量・品質面に悪影響を及ぼしますので注意しましょう。

生育時期	出穂～開花期	登熟期		登熟後～稲刈り前	
水深 5cm 3cm	浅水管理	間断かんがい		落水	
ポ イ ン ト	出穂～開花期は、水を必要とするので受粉障害が発生しないように田面を露出しない (3～5cm程度の浅水管理とし、落水状態は避ける)	出穂後10日位	出穂後10日以降	稲刈り前の落水	
		間断かんがい (1日入水、2～3日自然落水)	間断かんがいとし、徐々に落水期間を長くする。田面が湿っている状態を保つ。 (土に十分水が含まれている。)	排水が良い	排水が悪い
				出穂後 35～40日	出穂後 30～35日

◆高温登熟障害対策

穂揃い後～登熟初期にかけ、**日中の気温が30℃以上（夜間23℃以上）の高温が続く場合は、乳白粒・胴割れ粒等の高温障害が懸念されます。高温障害を回避する為には、入水を日中に行わず、夜間に行う「夜間かんがい」がポイントです。**

夜間入水や掛け流しにより水温の上り過ぎを抑え、根の活力維持・地温の低下に努めましょう。

- ①ひたひた水程度の浅水での常時湛水管理は、根腐れや稲の消耗を招き登熟の妨げとなるので行わない。
- ②大区画圃場での掛け流しは圃場内の水温ムラが起きやすいため、入水量にメリハリをつけた間断かんがいをお勧めします。
- ③用水確保が困難な圃場については間断かんがいとし、田面を乾かさないう程度の湿潤管理としてください。

いもち病対策

ポイント② こまめに圃場を巡回・観察し、発病を確認した場合は治療薬剤で防除しましょう。圃場をよく巡回観察し、発生を確認したら直ちに治療薬剤の茎葉散布を行いましょう。薬剤を使用した場合は、特別栽培米から外れ、ふるさと純情米となりますが、**発病を確認した場合は防除を最優先してください。**また、いもち病の発生を確認した場合には、JAまでお早めにご相談願います。

特別栽培米登録生産者の方の茎葉散布時はJA及び生産履歴現地責任者へ連絡願います。

参考：茎葉散布剤（治療剤）使用時期・回数に制限がありますので、ご注意願います。

薬 剤 名	防除のタイミング	使用時期	使用回数	散布量/10a
ブラシン粉剤DL ブラシンフロアブル	発生を確認したら散布。状況に応じて2回目は1回目から7日～10日後に散布。	収穫7日前まで	2回以内	*粉剤 3～4kg *フロアブル 1000倍液60～150ℓ

斑点米カメムシ類対策

1. 発生概況

アカスジカスミカメ第2世代成虫の発生時期は平年より早く、**発生量は「多」**の予報となっています。また、水田畦畔における斑点米カメムシ類の発生ほ場率は高い状況となっています。地域の生育ステージをよく確認し、適期防除を実施しましょう。

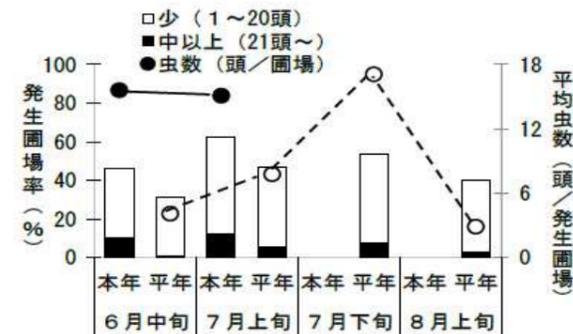


図1 斑点米カメムシ類の時期別発生状況

(水田畦畔往復20回振すくい取り)

(令和6年度農作物病害虫発生予察情報 注意報第1号 R6.7.16)



写真 イタリアンライグラスに寄生するアカスジカスミカメ（成虫）

2回防除の実施（特別栽培米を除く）でカメムシ被害を無くしましょう！！

参考：カメムシすくい取り調査結果

調査地区	調査場所	カメムシ成虫	カメムシ成虫	その他成虫	幼虫	調査地区	調査場所	カメムシ成虫	カメムシ成虫	その他成虫	幼虫
谷地上	畦畔	0	1	0	0	東 町	畦畔	0	7	0	0
三ヶ尻	畦畔	2	6	2	1	高谷野原	畦畔	7	0	2	0
改断	畦畔	161	19	0	1	穴 持	畦畔	0	0	0	0
大谷地	本田	3	1	0	0	遠谷巾	畦畔	0	21	0	0
1区	畦畔	1	0	0	4	長志田	畦畔	0	0	1	2
5区	畦畔	0	3	0	0	合計		167	60	5	6
鳥の海	畦畔	0	1	0	0						

栽培履歴（作業内容・農薬名・肥料名・散布日・使用量など）の記帳と、GAPチェックシートのチェックを忘れずに行いましょう！！

2. 薬剤防除の適期

ポイント③ 薬剤防除（スタークル剤）は適期に行いましょう。

注意点 薬剤の散布適期＝穂揃期頃（粒剤）、穂揃期1週間後頃（粉剤・液剤）

■出穂の判断のしかた

- ①まず、1本の茎をながめてみましょう。右図のように止葉の下から、靱ひとつでも顔を出したら、その茎を「出穂した」と判断します。
- ②つぎに、株ごとに観察してみましょう。1株の茎数を数えてみて、うち何割が出穂しているかを調べます。これが「出穂割合」になるので、数株調査し見本にします。
- ③つぎに圃場全体について、出穂割合がわかっている株と見比べて、圃場全体の茎数のうち、だいたい何割が出穂しているかを推定します。



圃場の出穂割合(出穂した茎数/全茎数(%))と出穂ステージ区分

出穂割合	10～20%	40～50%	80～90%
ステージ	出穂始期	出穂期（出穂盛期）	穂揃期

※圃場全体の全茎数のうち、何割出穂しているかで、各ステージを判断します。

★参考・令和6年生育ステージ到達の実態(予測)と薬剤散布日目安(7月25日現在の展示圃予測)

生育ステージ	70m以下	100m前後	100m以上	130m以上
出穂期(40～50%)	7月28日頃	7月29日頃	8月2日頃	8月4日頃
穂揃期(80～90%)	7月30日頃	7月31日頃	8月4日頃	8月6日頃
カメムシ薬剤一斉散布日	8月6日頃	8月7日頃	8月11日頃	8月13日頃

地域一斉防除でカメムシの逃げ場をなくそう！

■地域一斉防除のメリット

- ①地域全体のカメムシ密度を減らすことができる。
- ②地域全体の薬剤散布が短期間で済むほか、一斉散布日を決めることによって、農薬飛散防止・危被害対策の地域連携がとりやすくなる。
例：周辺の農作物・家畜の保護・住宅地の対策等、期日を明確にできる。

薬剤は圃場全面に散布しましょう！

- ①カメムシは飛翔能力があるため、圃場の中まで侵入しています。このため、圃場の周辺部分の散布のみ(いわゆる額縁防除)では、防除効果が劣るので、必ず圃場全面に薬剤を散布しましょう。
- ②畦畔・法面はカメムシの重要な発生源です。よって、散布は本田だけでなく、水田畦畔・水田に接する法面・休耕田(調整水田)も確実に散布しましょう。

3. 本田の薬剤防除 下記薬剤のいずれかの剤系を選択し防除を行いましょう。

栽培区分	薬剤名	防除時期	散布量/10a
特別栽培米 (1回防除)	スタークル粉剤 DL	穂揃期1週間後	3kg
	スタークル液剤 10		1000倍 60～150ℓ
	スタークル粒剤	穂揃期 (出穂期から3～5日頃)※	3kg
	スタークル1 ^キ H粒剤		1kg
ふるさと純情米 (2回防除まで)	スタークル粉剤 DL	1回目 穂揃期1週間後	3kg
	スタークル液剤 10	2回目 1回目から2週間後	1000倍 60～150ℓ
	スタークル粒剤	穂揃期 (出穂期から3～5日頃)※	3kg
	スタークル1 ^キ H粒剤		1kg

※粒剤は湛水で散布(水深3cm程度)、散布後4～5日は水を移動させないでください。

※本田内雑草が多くカメムシの発生が多いほ場では粒剤は使用しないでください。

特に以下のようなケースの場合は2回防除を実施してください。

- ①ここ数年、カメムシ被害による落等が多い。
- ②水田畦畔・法面・河川敷等の雑草、イネ科牧草の刈り残しがある。
- ③カメムシの発生源となる水田雑草(ヒエ・ホタルイ・シズイ等)が多い。
※水田雑草(ヒエ・ホタルイ・シズイ)が多い場合、薬剤防除前に抜き取りをしましょう。



アカヒゲ成虫 体長5～6mm

注意!!

出穂期が早まった場合、カメムシ剤の散布時期も早まりますので、ミツバチへの農薬危被害対策として、周辺の養蜂家への通知、御配慮の徹底をお願いします。

4. 畦畔の草刈について

出穂直前～出穂後の草刈は、カメムシを本田内に追い込み被害を助長する恐れがありますので8月23日(目安)まで草刈は行わないようにしましょう!

～令和6年産GAPチェックシートの取り組み(8月編)～

令和5年産のGAPチェックシート集計結果からチェック率の低い項目を毎月紹介していきます。令和6年産ではチェック欄に〇がつくよう取り組んでいきましょう!

「(必須項目)包装用の資材は、汚染や異物混入を防げる状態で保管されている」(68.5%)

「(必須項目)計量器を定期的に点検している(37.9%)」

→必須項目は特に意識して取り組むようにしましょう。

■水稻の栽培、農薬使用等に関するお問い合わせは…

「金ケ崎地域センター営農経済課」 43-2771

「営農アドバイザー携帯電話」

090-4478-9939 090-4478-9940

090-4478-9911 090-4478-9907

■生産資材・生活資材のご注文・配達…

「拠点配送センター」 0120-516-911 (フリーダイヤル)

■生産資材等の直取り・窓口供給は…

「金ケ崎資材センター」 43-2780

平日営業時間：午前8:30～午後5:00

休日営業時間：6月～10月 毎週土曜日 午前8:30～正午

※期間を通し祝祭日は休業です。

■奥州エフエム(77.8MHz)では毎週月曜から金曜日朝7:52からと

夕方17:42から営農情報や緊急情報を放送しています。

是非、ご視聴よろしくお祈いします。

LINE 3はアガフネ

友だち募集

@703kysml
うれしい情報をLINEでお届け

LINEにて営農情報を発信中です!

上記QRコードからお友達登録をお願いします。

※ 天気予報と体調をチェック 涼しい服装・安全な作業環境 こまめな水分補給こまめな休憩

農作業時の熱中症に注意しましょう!!